

## 命の環

### 大谷 祥 (千葉市稲毛区)

昨年秋に、五年生のみなさんと脱穀や風選、粃摺り、そして藁選りの作業をしました。大椎小学校では十月二十六日に、あすみが丘小学校では十月二十九日に行いました。その際にみなさんにお伝えした事の概要を記します（実際はもっと長く、約三十分を要しました。長すぎたかも、と後で反省）。

今日は脱穀や風選、粃摺り、そして藁選りをします。その前に復習をしましょう。

まず、春。五月六日にあることをしました。ほとんどのみなさんは御覧になっていない「播種」です（以下、かぎ括弧内の文字は板書しています）。「はしゅ」と読みます。種まきのことです。稲については特別に「粃ふり」とも言います。田んぼの中に「苗代」を作って、そこに「粃」をまきました。この「粃」という字は、よく見ると二つの字でできていますね。何と何ですか。そう、「米」と「刃」ですね。なぜ「米」と「刃」で「粃」なのかは、漢字字典で調べてください（以下、小学校で教わらない漢字については同様の説明を行いました）。

その後、田起こしをしました。そして皆さんが田んぼにいらっしゃって田植えをして下さいました。どのくらい植えたか覚えていますか。そう、だいたい一本植えから三本植えで、一人十二株でしたね。

次にみなさんがいらっしゃったのは草取りの時でした。田植えから草取りまでの間に稲にあることが起きました。「分蘖」です。「ぶんげつ」と読みます。この「蘖」と言う字。二十二画です。中学校では習いません。大人でも書けない人がいるくらい難しい字です。僕も三年前までは書けませんでした。分蘖というのは、稲の茎が増えることです。覚えている人もいられませんが、一本植えた苗は、分蘖すると扇のように綺麗に開いていましたね。

次に皆さんがいらっしゃったのは稲刈りの時でした。草取りと稲刈りの間に稲にある変化が起きました。「出穂」（しゅっすい）と「開花」です。出穂は茎から穂が出てくること、開花は稲の花が咲くことです。みなさんには鎌を使って稲刈りを、紐を使って「結束」して稲束を作っていただきました。その後、学校に運んで干していただきました。干すことを「乾燥」と言いますが、稲の乾燥には実に色々なやり方があります。（大椎小ではここで松下さんより「山形県出身の升川教頭先生が面白い干し方をご存知です」とのお話があり、そのお話が昨年十二月号の谷津田だよりに掲載されています）

復習は以上です。さて、今日はまず「脱穀」をします。稲束から粃をはずす作業です。脱穀をすると大きく分けて「藁」と「粃」、「粃（粃）」（しいな）、「藁の破片」の四つの部分に分かれます。この内、藁は後で「藁選り」をします。他の三つの部分は「唐箕」という道具を使って「風選」します。すると、粃を選り分けることができます。

その粃を今度は「粃摺り機」という機械に入れて「粃摺り」をします。すると粃の中から玄米を取り出せます。この玄米にするまでが今日の作業です。なお、殻の部分は「粃殻」です。「粃殻」と「粃」と「藁の破片」は全て田んぼに戻します。



体育館でお話を聞く子どもたち（撮影：稲富直彦）

玄米は中心部分の「澱粉」と、それを薄く包んでいる「糠」で出来ています。玄米を白米にすることを「搗精」（とうせい）または「精米」と言います。ほとんどの人は、糠を取り除いた澱粉の部分、つまり白米を食べていると思います。

でも実は糠は栄養の塊なのです。糠という字は米偏と、何という字で出来ていますか？「康」ですね。「健康」の「康」です。糠の中にはたんぱく質やミネラル、脂質などいろいろな栄養成分が入っています。ミネラルの中にはカルシウムや鉄分、亜鉛、ナトリウムなどがあります。これらはほんの少しずつですが、体には必要な物です。



さて、みなさんの唾液の中には酵素が入っています。酵素は、ある物質を他の物質に変えるものです。唾液の中にはアミラーゼという酵素があり、これは澱粉を糖に変えます。お砂糖ってどんな味がしますか？ そう、甘いですね。ということは、お米を良くかんで唾液と混ぜると、甘くなるという事です。人間はでんぷんを吸収できません。だからよくかんで、糖の形にして消化しやすくするので。

お米は腸で吸収された後、みなさんの体の一部になります。特に糖分は脳で使われます。糖分がないと脳は働きません。そして体に吸収された物は栄養となって、体の一部になって、使われた後、最終的にいなくなります。そうすると、体の外に出てきます。「糞」ですね。この「糞」という字は、何という字で出来ていますか？「米」と「田」と「共」ですね。「米と田んぼと共にあるものが糞」とも読めます。昔は、糞は田んぼや畑に戻していました。田んぼや畑で育ったものは、田んぼや畑に戻していたのです。汚いと思う人もいるかもしれませんが、田んぼにいる生き物達は、みんなおしっこもうんちもしています。それらは目に見えない小さな微生物達の食べ物となり、土にかえり、稲やいろんな生きものたちの栄養になります。

今は下水処理施設ができたので、みなさんが小山で育てて食べるお米は、最終的には他のところに行ってしまう。施設で処理したものの一部は肥料となります。その肥料をみなさんの田んぼに戻せば、少しだけ循環ができますが、完全ではありません。

ちなみに糞という字は正確には「共」とその上の部分（米の下に田という字）を組み合わせた字です。上の部分の字は、「畑にばらまく」という意味です。下の「共」の部分、この場合は「両手」という意味があります。つまり、糞を入れた容器を両手で田畑に持って行ってまく、という意味です。

田作りは、種を播くところから最終的に食べるところまでのそれぞれの段階で色々なやり方があります。今年、みなさんにやっていただいたのは、その中のひとつです。種の播き方だけでも色々なやり方があります。田植えも草取りも、稲刈りも乾燥も脱穀も籾摺りも、食べ方も色々です。それをどうぞ覚えていてください。

作業の前に一つお願いがあります。これらの稲束についている籾は、生きています。脱穀した籾をとって置いて、来年の春に田んぼにまいたら芽が出てきます。ということは、生きているということです。ですから、今日作業する時に、籾が落ちていたら一粒残らず拾ってください。また、籾を踏んづけたりしないでください。もしみなさんが他の人に踏まれたらどのように思いますか？ 嫌ですね。一粒一粒は小さいですが、命の重さは人間一人一人と同じだと僕は思っています。ですから、籾は大切に扱ってください。

それでは、作業を始めましょう！





# 里山たんけんレポート

## 第156回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2013年1月13日(日) 晴れ

2013年新年にあたり、下大和田で活動を始めて14年目、皆様のご支援により今日は第156回観察会と、第142回 YPP どんと焼きを同時開催の運びとなったことへの感謝と、下大和田の貴重な環境を維持して次の世代に引き継げるように引き続きのご支援をお願いしてスタートしました。

葦原の中では盛んに小鳥が動いています。時々体を現わし飛びますがまたすぐ藪に隠れます。アオジです。似たような小鳥でお腹白いのが飛んで来て葦原に入ったり柳にとまったりします。頭の羽がちょっと立ったカシラダカです。動き回るので双眼鏡も使い慣れないとなかなか姿は捕らえられません。まして望遠鏡では姿を捕らえられません。レンズに入っても2人も見ないうちに飛んでしまいます。声だけで残念でしたがウソ、ベニマシコの声が聞こえました。どちらも今冬はこの谷津にきています。突然斜面林下の土水路からシギの仲間が1羽前方へ飛び出しました。クサシギかタシギと思われました。少し歩を進めたところ、そのシギが戻ってきて皆の面前を後方へ飛び去りました。嘴が長いタシギでした。

冬枯れの谷津、枯れたヨシやセイタカアワダチソウを踏み倒し、踏みしめ藪を漕ぎながらの谷津巡りは非日常のちょっとした冒険でした。

(参加者 大人17名、大学生1名、高校生6名、子ども6名； 報告：網代春男)

## 第142回 下大和田 YPP「どんと焼きと昔あそび」

2013年1月13日(日) 晴れ

一年の始まりのイベントにふさわしい日となりました。寒かった前日までとうって変わり、青空の広がる暖かい一日です。風もやさしく吹いています。今日はどんと焼きです。この日は有志が時間前に集まり田んぼの手入れをしました。畔の補修です。その後、同時開催である観察会も行いました。観察会のときにはたくさんの人が集まり谷津田を散策しました。

どんと焼きの準備が済むとその後は毎年恒例の火おこし大会です。この日は6つのグループに分かれ火おこしを競いました。しかしこの好天に反してなかなか火が付きません。30

分も経過したころでしょうか、あきらムードも出始めたころようやく火が付きました。どんと焼きの始まりです。大きな炎が上がると、一同おっと歓声があ



みんなで火起こしに挑戦！

がります。火の中の竹が威勢よくパンパンと弾けます。すごい音で子供たちはちょっと吃驚です。でも慣れてくるとスリルを楽しむようになりました。子供たちはその後も火の中に木や枯草を投げ入れ楽しい火遊びです。マシュマロを焼く子もいます。おいしいお汁粉が振舞われました。中に入るのは丸い焼き餅です。この谷津田で育ったお餅です。こんにゃくの味噌田楽もできました。ホイルに包まれた焼き芋美味もおいしかったです。その後、子供たちを集めクイズ大会。前回のYPPに出られなかったご家族の谷津田お米づくり講座の修了式を行いました。

(参加者；大人32名、高校生6名、こども9名、幼児6名、 報告；平沼勝男)



どんと焼きの炎が高く舞い上がります(撮影：網代春男)



子どもたちが集まってクイズ大会

※1月14日に予定されていたYPP 小山の自然観察会は荒天により中止となりました。

## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 1月 1日 アシ原にベニマシコ、斜面林にウソがいた。上空をノスリが舞う(高山)。  
1月27日 ルリビタキのオスとメスが見られた(高山)。

### 下大和田

- 1月 8日 ヒガラ、ウソ、ベニマシコが見られた(網代)。  
1月 9日 ヒガラ、ルリビタキ、アカゲラ見られた(網代)。  
1月13日 観察会&どんと焼きを解散した後、アカゲラの大きな鳴き声が響いていた。(網代)。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

## ▼第143回下大和田 YPP「アカガエルの産卵調査」

2月はニホンアカガエルの産卵シーズンです。卵を産むために冬眠から一時目を覚まして真夜中の田んぼにやってくるアカガエルたち。今年はどれくらいの数が見られるでしょう? お楽しみに。

- 日時: 2013年2月16日(土) 10~14時 \*小雨決行  
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)  
集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)  
持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、寒いので暖かい格好でお出かけください。  
参加費: ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料  
主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

## ▼第158回 下大和田 3月の谷津田観察会とごみ拾い

今年のアカガエルの産卵は順調だったでしょうか。大半はオタマジャクシになっている頃です。冬鳥とはお別れの季節です。春のきざしを求めて谷津田を巡ります。

- 日時: 2013年3月3日(日) 10~12時 \*小雨決行  
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)  
集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(下大和田 YPP に同じ)  
持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など  
参加費: 100円(小学生以上、資料代など)  
主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

## ▼第89回 小山町 YPP「自然観察」

谷津で冬越しをする野鳥などを観察しながら、谷津田や斜面林周辺を散策します。

- 日時: 2013年2月17日(日) 10:00~12:30、小雨決行  
場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)  
持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、もしあれば双眼鏡。  
参加費: 100円(小学生以上、資料代など)  
主催: ちば環境情報センター

編集後記 2月3日の下大和田自然観察会でニホンアカガエルの卵塊を確認したというニュースが届きました。1日には卵塊がなく、その晩から2日にかけて太平洋側を低気圧が通過して天気が崩れて、とても暖かくなりましたので、1日か2日の夜が今シーズン最初の産卵だったのでしょうか。今季は成人の日に大雪が降って驚かされたように寒さが厳しいので産卵が遅れるかと思ったのですが、ほぼ例年どおりでした。毎年同じように繰り返される生きものたちの営みですが、いつ始まるかわくわくしながら心待ちにしたり、たくさん産み付けられた田んぼの風景をウキウキして写真に納めたり、恒例の楽しみです。(高山 邦明)